

Work & Life

「地元企業として地域のお役に立ちたい」。大豊建設がそんな思いで、毎月実施している清掃活動がすでに3年半に及んでいる。東京都中央区新川にある本社周辺で行われるこの活動には毎回、二十数人の社員が自主的に参加。始業から約30分間、地域に捨てられたごみを拾って回っている。清掃活動のほかに同社は、新川一丁目東町会と災害時の援助協定を締結するなど、地域に根付いた活動に積極的に取り組む。そんな同社に対して町会の押田まり子会長も「いつも感謝しているし、町会活動の重要な戦力として期待している」と話す。

まちかどクリーンデーに参加

中央区が地域の清掃活動を展開する「まちかどクリーンデー」。区内の団体や町会、商店会、企業などを登録し、きれいなまちづくりに役立てようというこの試みに、同社は06年7月から参加している。

毎年5月に開かれる区内の一斉清掃で同社は、新川一丁目東町会と一緒に参加し、「和気あいあいとした雰囲気の中、一緒に汗を流している」(総務部)。この活動とは別に毎月実施し

本社周辺を毎月清掃



15日の活動の参加者



清掃のようす

ているのが、3年半続いている自主活動としての会社周辺での「まちかどクリーンデー」と書かれたグリーンラインのウインドブレーカーを着込んだ参加者が、手にゴミ袋と清掃用トングを携えて活動を開始。周辺のオフィスへ出社し

朝8時30分。背中に「まちかどクリーンデー」と書かれたグリーンラインのウインドブレーカーを着込んだ参加者が、手にゴミ袋と清掃用トングを携えて活動を開始。周辺のオフィスへ出社し

「社員がボランティア精神で参加している」(同)というこの活動は、「新川で育ってきた当社が地元のお役に立ち、企業としての社会的責任を果たすにはどうすべきか」という思いから、自発的に始まった。

これまでの活動に参加した延べ人数は800〜900人にとぼる。

毎回の活動の記録として撮影した写真は、社内の広報資料としても活用されていて、まだ活動に参加していない部署の人たちからは、「『うち』の部署」も参加したいけど、どうしたら

町会の押田会長(左)と関副会長(右)の両氏が、関副会長の営むカメラ店で



町会の押田会長(左)と関副会長(右)の両氏が、関副会長の営むカメラ店で

大豊建設

いいのだろうか』という問い合わせも来ている」(同)など、反響も大きいようだ。

町会活動の重要な戦力

清掃活動に加え、昨年末に町会と締結した「災害時における援助協定」は、地震による災害が発生した場合に、互いに協力し合い、被害を最小限に食い止めることを目的としている。

具体的な内容は、地域住民の人たちへの応急給水設備として、同社社屋の受水槽を用いて援助活動を行うというものだ。

「災害時の水の確保は重要。それを提供してもらえるのは、本当に助かる」と押田会長は、大豊建設への感謝の意を示している。

ほかに、江戸三大祭りの一つに数えられる毎年8月の「深川八幡祭り」で同社は、おみこしを出す町会への寄付なども行っている。みこし総代の関三樹雄副会長は「ぜひ今度は、一緒に(みこしを)担いでもらいたい」と祭りへの参加にも期待を寄せている。

100戸程度の小さい同町会にとって、昼間の住民である企業の援助は大きく、活動を継続していく上での強みにもなっている。

押田会長は「これからも活動の重要な戦力として積極的な参加をお願いしたいし、ぜひ、企業の側から見て『町会がこうしたらもっとよくなる』という提案を出してほしい」と話している。

「まちかどクリーンデー」に参加している「まちかどクリーンデー」。区内の団体や町会、商店会、企業などを登録し、きれいなまちづくりに役立てようというこの試みに、同社は06年7月から参加している。

「まちかどクリーンデー」と書かれたグリーンラインのウインドブレーカーを着込んだ参加者が、手にゴミ袋と清掃用トングを携えて活動を開始。周辺のオフィスへ出社し